838
297
116
木

国立国会図書館　　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

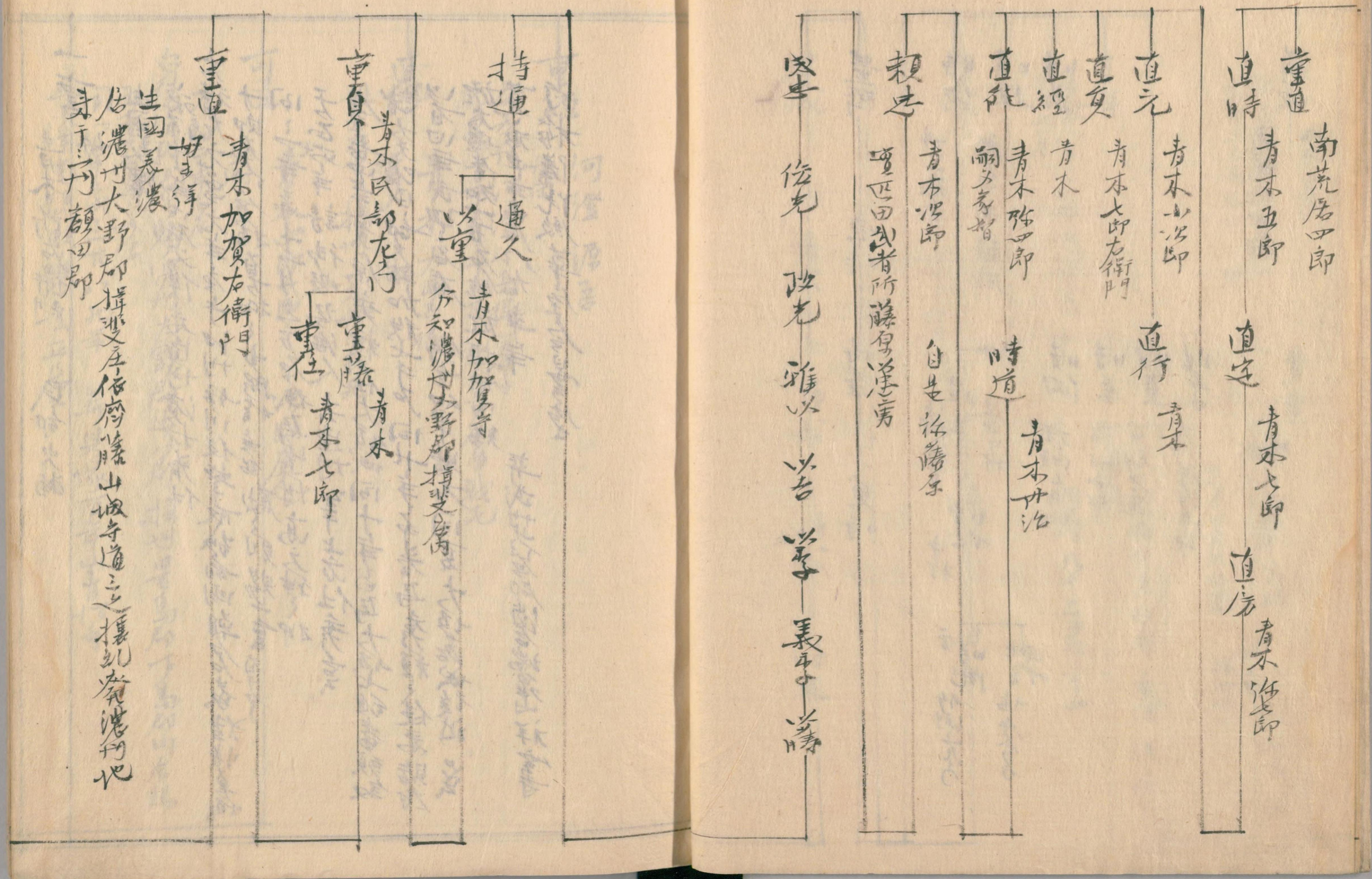
ガラス使用

根岸信輔氏寄贈

昭和八・一〇・贈

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

上重　青木所右衛門　民部少輔
　妻
法國義濃
永祿十二年六月六俱未時出濱松書仕
大神君元龍元年庚午江州姉川役擊取討死朝倉家猛將真柄
十郎左衛門尉直隆小脇指無銘　龜ノ甲賜一貫有千字
同三年十二月三方原役為遠州高天神ノ押
天正元年請御暇為濃人去遠州至于北条仕秀吉
慶長三年庚寅為大坂七組番頭致
諸事改民部少輔加秩七千石同十年乙巳為大坂四十年
著旨等武功之名有　鈎者當于駿府同夏大坂陣後被
於大坂生知一万石餘於播州加賜
寛永五年戊辰八九年
于梅隣院殿華屋宗曇居士
　葬武蔵国豊嶋郡巣鴨村祥雲寺

重經　河澄源吾
　妻
為參州河澄小兵衛養子
元龍二年甲二於二万石
　青木大膳亮衛

直鎮　壻
仕秀吉公播州二木傳兵衛死

可道　青木四郎二郎　次郎左衛門尉
　妻
元和二年甲戌
　父祖ノ跡ヲ賜濃州大野郡安房
五千石為二萬石
同八年壬申二月八日
于淨光院殿惠玄正屋
　葬巣鴨ノ年山青松寺

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

寛文十二年閏五十為駿府加番同年十二月朔日病之翌
同年九十六歩番頭之時　御見之上意賜羅紗之陣
同五年丁巳正十六死年　寺万年山青松寺
号浄法院殿義林道勇居士

直清　青木右衛門　縫殿助　縫殿頭
　　甘家九房
妻　茶津出羽守政武女
　　宝永四年十月廿日死　青松寺
　　千俣権兵衛紹陽之妹

延宝四年四月生於江戸
同五年丁巳七十七日五千石於江戸
傳く為寄合同七年十二月廿日小性組加番同年九月廿日時服四領
元禄十年十五富秋駿府加番同年九月廿日時服四領
同十七年四月十七日病死

宝永
正徳二年辰六位出精　御見之上意賜羅紗三陣之
十年庚子十二月為書院番頭同年十二月廿日小性組加番
同年十二十六組諸役改役後殿頭
元文元年丙辰十五為御書院番頭同五年庚申二十五為
竹千代君御附御側元延享三年丙寅九之遠光寛延四年未移
宝暦二年壬申七十四死年七十七葬地万年山青松寺
号花岳院殿前尚縫縫殿頭

直里　青木数馬
母　茶津出羽守政武女
正徳二年辰二十九始　中間見習
享保八年癸卯二十九年
号通学院殿　樹禅鷹居士
葬　石野之墓

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

女子
酒井内蔵助忠世室 寿

直勝 母 青木氏 九十郎

直政 母 青木氏 九十郎

直孝 母 青木氏 九十郎

直寄 母 青木氏 九十郎

直重 母 青木氏 九十郎

直恒 母 青木氏 九十郎

直澄 母 青木氏 九十郎

女子 実 朝倉宣正女

女子 母 家女

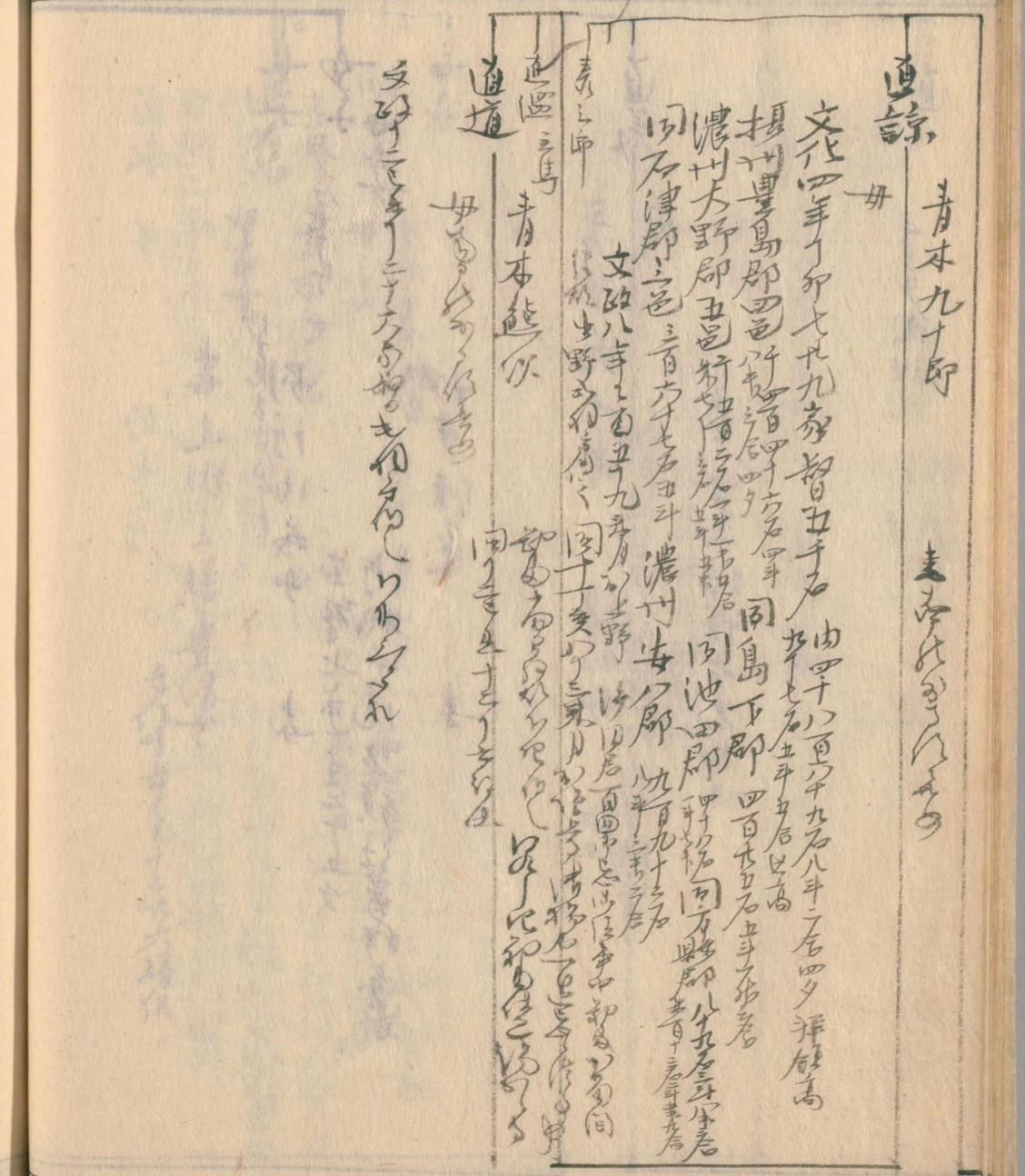
女子 別所内蔵助 母 家女 寿

女子 小姓頭 土子源左衛門尉 母 家女

女子 母 家女

女子 母 家女

女子



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

延宝八年庚十二月廿六日卒法名宗参
元禄七年甲戌二月四日陽高加会贈百五十俵者
宝永二年乙酉一周忌営為士喜緒方修亮所誂
四五年内千六十二元年

某
母
青木所左門
元禄十三年庚辰 元

喜兵衛
母
青木二甚十郎 仕当職 勝膳 茂兵衛

宝永五年戊子 代之跡百五十俵召出し御普請奉行仰付
松平主計頭組移之保平野孝隆
宇保十七年甲申 元之如く御小人押頭仰付九年目ニ
辞為本番ニ松平主計頭組之内ニ而元文二年乙巳十二月廿六日致仕跡当勝
延享四年丁卯五月八日卒七十

宣政
青木甚四郎
妻
妻岡部権左衛門娘 盛忠室

宇保十二年甲辰十二月四番手
元文二年乙巳十二月廿六日家督百五十俵
中奥番ニ而為士喜緒方修亮所誂
延享元年甲子九月八日卒

宣幸
母
烏之喜助
養子

青木清左衛門

宣澄
母
同
信濃守左仕御人

青木改之助

幸幸 ― 幸同社 亘者男

延宝元年子十二月廿五日 百五十俵五人扶持 於勘定所御先手列座 杉子左近
好 遠傳 ゝ 鳥 申 書 綿 ゝ 御 小 姓 ゝ
宝 暦 十 年 辰 二 月 卒 兄 生 ゝ 山 本 吉 左 衛 門 組 皆 杉 子 左 近 将 監 ゝ
正 十 二 年 壬 子 七 ゝ 足 告 納 討 鳥 居 伊 賀 守 ゝ 傳 ゝ 鳥 申 書 綿 得 右 衛 門 ゝ 原
紋 中 子 ゝ 跡 安 永 四 年 乙 未 十 二 月 元 ゝ 元

青木吉之助

傳 ― 母 妻 ― 妻 同 苔 ゝ 御 小 姓 ゝ 原

安 永 五 年 申 子 三 五 俵 目 百 五 十 俵 ゝ 人 扶 持 於 勘 定 所 御 先 手 列 座 田 沼 意 次
傳 ゝ 鳥 申 書 綿 ゝ 島 敬 馬 ゝ 跡

同 九 年 庚 子 十 一 月 元

信秀 ― 青木大次郎

貢 蔵 谷 新 左 衛 門 ゝ 娘 改 ゝ 男
貢 母 ― 妻 ― 中 村 六 右 衛 門 ゝ 妹
妻 春 ゝ 改 ゝ 女

安 永 九 年 庚 子 十 二 月 七 無 後 ゝ 為 差 留 ゝ 跡 百 五 十 俵 ゝ 蔵 勘 定 所 御 先
刑 部 ゝ 様 ゝ 石 高 ゝ 文 傳 ゝ 鳥 申 書 綿 ゝ 島 澤 馬 ゝ 弟 ゝ 跡
大 明 八 辰 年 九 十 ゝ 文 中 ゝ 人 ゝ 屋 敷 ゝ 御 徒

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

女子 母同富之助妻女

重義 青木甲斐守

寛永五辰年他界 又一重ノ遺領摂州豊島郡西一百石餘

寛文十二年子ノ十九致仕于端山

致仕 端山

重一 葉 青木 主殿助 重酒井讃岐守忠清ノ男

母酒井備後守忠利女 寛文十年庚戌年五月廿日没 法名 能登院殿義延性尊大姉

寛永廿年申ノ六月九日没 祥雲寺 号三安一三居士

重正　青木右衛門佐　内膳　民部　甲斐守

寛永朝信州後守宣親男
寛母酒井讃岐守忠勝女

寛永二年生為酒井讃岐守忠勝猶子
正保元年中為養子承應元年襲封
寛文十二年三月九家督　摂州豊島郡屋形一万石
同年十二月八叙諸大夫改甲斐守　銀馬代
延宝二年壬寅六為参向　法皇使御馳走役　同三年乙卯五月廿八
加當同年八月小姓賜銀五枚織同四年丙辰十八府中詰被仰付
銀馬代　天和二年壬戌二六参向　同年十二月廿六
負事五年癸酉五廿五當社駿府加當　同年九十五御暇賜脇五
羽織之縁二年己十五御行　同三年庚午五十八為大使番頭
同年七月大坂在當同四年辛未八月廿六御有職故実被仰銀馬代
同年九月在當十月改
同五年壬申正十為御重役　同年三月為御側衆同四月二
御布衣御免　同年六月九献進物刀御前長櫃
同十五日死年六十九

重正　青木永馬助

母家女

為同姓縫殿助直昌養子

重矩　青木源五郎　民部　甲斐守　重正男

昭重ニ重矩ニ重是ニ

母同姓甲斐守重事女

寛文五年巳生於江戸
延寶二年甲寅五十八廿　御覧時服銀馬代

甲斐守

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

元禄六年癸酉十二組父遺領摂地豊島郡
同八年乙亥九歳秋駿府加番
同九年丙子十月五日有懐嫡之旨挺銀馬代
宝永四年丁亥九十八家士野本太夫徴擢充書
同六年己丑四十五叙諸大夫陽明門警衛
正徳二年壬辰二致仕同四年甲午卒法号
宝隆養病阿弥陀寺
六十五

男
智
朝倉主水
常孝
智
為朝倉主水勝十郎景行養子
寛文十年庚戌三月
于相模宗大孝

朝明
智
為加藤九衛門嘉隆養子
加藤内膳
駿河守
業
智
青木源之助
智
早世

男
智
女子
智
女子
智
始重行五盛
典
智
青木寅之助民部
出羽守
甲斐守

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

堂冷泉大納言為経女　母同　元禄十一年戊寅生於江戸　宝永七年庚寅七十郎　叙見時服銀壱枚　正徳二年壬辰二月廿五日　従五位下　同年十二月二日　朔旦冬至　依例加階　同年十二月廿二日　補侍従　同四年甲午二月廿九日　転右少将　同五年乙未正月廿日　叙従四位下　同六年丙申正月五日　叙正四位下　同年九月廿四日　叙従三位　同十年乙巳五月十八日　薨　同日　贈正二位大納言　法名　浄光院殿前亜相清巌道明大居士　葬　京都　妙心寺塔頭　大通院

子　母同　加藤左近将監明義妻

子　母同　堂冷泉院前亜相為綱女

一都　母同　堂谷出羽守重政室

青木源五郎　甲斐守

寛保二年壬戌五月九日　薨　高野山青巌寺　梅月院

寛保元年辛酉生於江戸　同廿一年丙辰二月継領一万石　元文四年己未二月廿五日　叙　侍従　同日　叙　従四位下　出羽守　寛保元年辛酉七月廿九日　薨　浅草　東本願寺　同二年壬戌六月廿九日　葬　浅草　東本願寺

見興 母之子 為兄一都養子

某[同]
女子 [母同]

某 青木寅太郎 女

某 青木龜之助 母之子

為河野九郎邑唯忌有養子

青木彥吾 井上左衛門尉 女

某 為井上左衛門尉養子

見興 青木内膳 内膳正 母之子

寬延二年庚十二十九組領知高豐島郡麻田万石

同年二月朔御目見時賜二領服

寶暦元年辛十二十八新墓代

同四年甲戌八十四辛年三十二

一新 [故有[同]之]

青木主税 養濃守

寶一興 母之實子

享保十三年戊申生

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

宝暦四年戌二月五家督相続
同年十二月小納言更任従四位下侍従
同十三年癸巳九月駿府加番明和七年庚寅七月二日
天明元年辛丑五月卒年五十四

在 青木左近
妙安寺
明和二年乙酉六月始 御目見 諸大夫二俣
同三年丙戌二月卒年十八

貴 青木伊織 甲斐守
妙安寺
室伊達近江守村年二男
室女 松平陸奥守村孝
室養父 一新女

明和六年己丑無嫡領地同七年庚寅二月三嶋詰番
妙心寺 御目見時服二領黄金五枚同年七月十六日
卒年二十六 法名 二俣院殿月峯玉心大姉
妙心寺 塔所

女 妙安寺
室 青木虎千代
室 青木源十郎

養子 一貴室
天
文

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

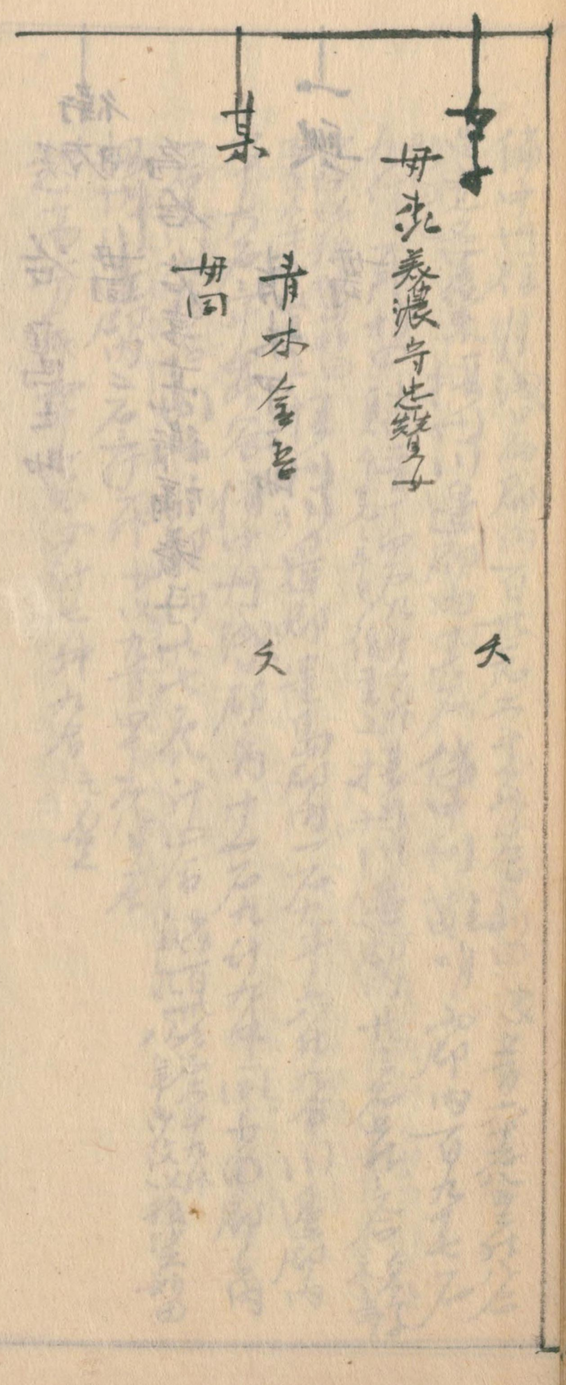
ガラス使用

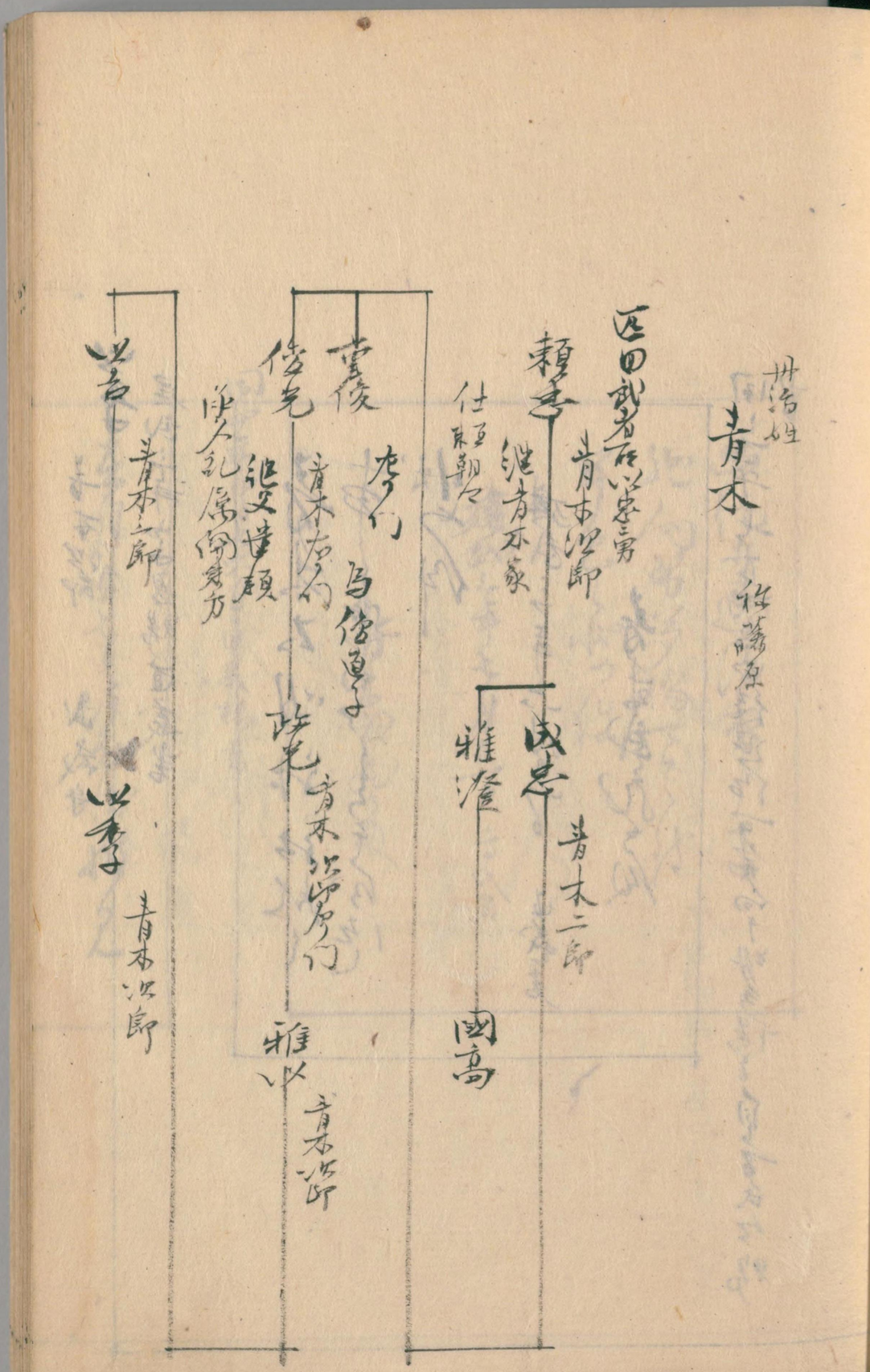
国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

永享十年六月卒

以重 青木加賀守
永享四年三月賜義滿國大内
氏部屬 青木善作守
付室町義教

重頼 青木次郎
嗣

女子

重直 青木加賀守

重位 青木七郎為
上山氏部
家頼

重藤 青木民部為
吏同姓善作守家頼

重直 青木加賀為

教方 青木德壽丸 次郎 武藏次郎 武藏守
永享十年三月廿五日 從父遺領 宛行伊勢守護職 守護地頂領 安堵兩職

伊勢國永禪寺地頂
永安領事 守護職
依兼教方 守護
之例 下知如件

永享十年三月廿九日

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

方頼　清和源氏　武蔵守
　　従父兄頼信朝臣猶子

頼宗
方景
重景　清和源氏　武蔵守
　　出羽住人安倍貞任等ヲ征伐ス
貞父　清和源氏　武蔵守
女子

頼利　清和源氏　武蔵守
　　住吉町義清卿
女頼

利依　清和源氏　武蔵守
　　大永六年六月生江州
　　住吉町家義卿猶子
　　永禄十年十月卒江州
　　弓削因幡守護
　　妻義輝卿準后
　　猶子江州西福寺尊珍女

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

利寧　肖木戊戌年　月一日生

女子　母野口氏女　寛文二年壬寅卒　寿廿九

利長　肖木、式部大輔　母同　延宝六年戊午九月七日　于一指斬

利澄　肖木

女子　延宝九年辛酉三月廿五日　八歳断絶　肖生寺　于佐賀院殿龍鳳大禅定尼

女子　母野口氏女　寛文二年壬寅卒　寿廿五　法名妙元

泛信　肖寿

利定　肖木　式部大輔　母佐々氏女　寿九條関白道孝公猶子　実毛利甲斐守吉成二男

女子　母野口氏女　寛文二年壬寅卒　寿廿五　法名妙元　龍大居士

永禄六年癸亥生　旅城州　同十年丁卯又利倫　勲功　城州　勲居　城州　号一雲軒

寛永廿二年乙酉三月廿五日　于慈澤院殿元龍大居士

利重　肖木　式部大輔　母佐々氏女　寿九條関白道孝公猶子　実毛利甲斐守吉成二男

女子　母野口氏女　正徳二年壬辰卒　寿九十五　法名妙元　龍大居士

寛永十二年乙亥生　旅城州　号一雲軒

寛文十二年壬子三月廿九日　于流光院殿華月清香大師

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

鈴木

自千二年至五十九年五十年之
月住等
十騎之従駕奉祖等之

井治

青木

本國武蔵

江州甲賀郡青木城
武蔵守敏方男

青木筑後守

貞義 生江州甲賀郡 毒 二州名戸 大野掃部助隆五女
明應元年住本高頼 背京都命江州不穏此時貞景疑振孔
寺内治部郎
後住于江州甲賀郡丈文十二年之春 死年七十三

貞義 青木又左衛門
生國江州甲賀郡
明應元年寺内治部郎

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

義俊　青木四郎兵衛尉
　　出羽守
　　則應六年巳生
　　文保二年卒
　　法名祐二年卒
女子　生
　　嫁　清福君
　　摩耆

貞季　青木左京進
　　信濃守

貞成　青木左京進

義秀　青木三藏四郎
　　生母

吉次　青木四郎兵衛尉
　　元曼二年卒

吉連　青木四郎兵衛尉
　　大永六年卒或生於參州
　　為俊又為貞義子止一向衆
　　十神君同六年卒又云同年十二月二日於當地一方屋敷戰死等卒
女子　山田十郎室
義秀　青木三藏四郎
　　生母

義勝　青木二成　伊豆守
童形
元慶二年卒在継於二方多合戦死無男子赤股膝姫為合継ぐ乃未于二州巴峰大神君四二年丁亥卒
大神君四二年乙亥義勝従父兄義時
慶長十二年丁未於仁州加茂死
女子　山田十支　童形
青木四郎兵衛
吉久　母同
元慶二年丙午父義勝卒之処
于時十年乙午初于仁州
大神君先祖病不参仕

義長　青木二成　二方内
生母仁州加賀郡
慶長元年卒於伊賀
大神君石行賞故辞参仕後願引養母賀
寛永二年乙丑八月二九

義之　青木五郎八　五郎左衛門
生母近江
慶長元年卒於伊賀始参拝
大神君直附至賜年俸二百俵為御
大乃御度供奉元和二年当君生于
台徳公為大御番加年経歴頗組
江戸参在

寛永九年賜御墨物金小判五枚同十年賜御盃
九曜石酒等同廿四日島原内賜
同十一年甲戌九廿六死

兼重　青木又成　竹内平右

之義　妻　青木彦兵衛

妻山田七左衛門道利女

元和八年壬戌始拝
山城之稽古同九年癸亥為上意御番組加
寛永二年乙丑賜二百俵同九年壬申為御番組加
同十年癸酉二月廿九日死
同十一年甲戌閏四月廿日賜
明暦二年丙申九廿六死

義和　青木兵之助　六左衛門　五右衛門

妻石藤吾右道女

元禄九年丙子五月廿五日死
今栄運院越華蒼延樹大姉

正保四年丁亥十二月廿五日新規
慶安二年己丑十二月百俵
万治二年己亥より五人扶持
寛文二年壬寅より米瀬弥兵衛
天和二年戌より五人扶持
貞享二年乙丑六月五日御暇
元禄二年己巳より百俵
元禄十三年庚辰より御蔵米
今覚林院殿木蒼道頓大姉

誓像　三百俵

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

正高　西尾庄九郎　作五等後西郎
　　妻同

正之　西尾庄三郎
　　妻女

等義　石川大之助　市九郎
　　妻
為石川源之助義政養子

義賢　石川五郎助　藤兵衛
　　妻石川藤兵衛道賢女
為石川藤兵衛道賢養子

義方　青木又十郎　傳九郎門　八左衛門
　　妻同
　　妻田村

延寶六年寅二月九日依大小御番酒井左衛門尉忠清
二條在番御暇同九年酉五月十日
元禄二年巳二月七日為相國御成大小御番
同三年庚午二月十四日大御番
同三年庚午八月廿日依旨光中刻迄大久保加賀守傳之

重良女
寛文七年未十二月十三日於江戸
号貞寒院殿松蔭曉月大姉

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

同十六年薨七十五元年
号玄體院殿寂譽靜安屋

義大 石川彥右
　　母同
　　為石川藤兵衛義賢養子

女子
母同

女子
母同

當高
　　青木五郎八
　　實
　　實母

元禄十六年薨九十七贈四百俵於菊間而御花畑列座
傷く為中善律周防守組
正徳元年辛卯十月二為大
元文二年丁巳十二月八為寛
延二年己巳五月八日少史
寶暦二年壬申十月廿九年

女子

當侯　青木五郎八　在京
　　實
　　實母

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

宝暦二年三月廿二日 諱貞 通称 為十郎 従四位上勝元院 同四年十月廿五日 於江戸 仙石伯耆守屋敷

女子 母

女子 嫡 永井主膳正直敬室 寛保二年三月廿日 於江戸 仙石伯耆守屋敷

女子 次男 大久保内膳正忠寄養子 為大久保隼人正忠真養子 武氏妻 宝暦二年三月廿日 於江戸 仙石伯耆守屋敷

女子 佑原小十郎妻

某 青木五郎八 母同姓傳左衛門高安二男

義次 青木甚四郎 寛政六年十二月廿五日 於江戸 仙石伯耆守屋敷 杉原四郎兵衛正方二男

妻 大久保内膳正忠安女

元明五年乙巳十二月廿五日 四百俵旅着 従中列 水野出羽守傳之 為中書 請中坊金兵衛記 同九年申年五月廿日 於江戸 仙石伯耆守屋敷 御老中列 鳥居甲斐守傳之 為村上和泉守組

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

青木八平郎

寛
堂女

文政九年丙戌七月廿日 習傳於前而小池仲列坐下野出羽守傳ク

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

義茂　青木長九郎

母山田七左衛門尉女

妻

寺保十九年申貳二月死葬世尾州
祥雲寺内心淨院殿高月良雲居士

明暦二年酉十二廿一踏背罪
寛文十二年子五月六日御免帰
同年六月九日往番仰暇同十三年癸丑
廻宝三年乙卯二月八日在番御暇
同六年丙午六九九日往番仰暇同七年丁未
同九年己酉二月往番御暇同十一年辛亥
同四年甲寅五九日
為小普請伊澤隼人組
同十三年癸丑九日
為大御番土屋長部丞組

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

文禄五年丙申六月廿日中大将雷顔同十二年丁未二月廿九日叙従二位同年十月廿八日任権大納言慶長十五年庚戌正月廿八日叙正二位元和元年乙卯七月廿七日任内大臣寛永二年乙丑九月廿三日転左大臣同十一年甲戌七月廿七日薨于二条城第年七十一贈従一位太政大臣葬于増上寺

母 明宮

妻

義父 清水忠太夫門

妻 忠四郎

室町家譜曰 実者元亀元年庚午六月廿二日御誕生天正十年壬午六月廿一日従父命出家入于妙心寺改名玄圃霊三同十三年乙酉八月廿一日為大徳寺第百廿二世住持同十四年丙戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同十五年丁亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同十六年戊子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同十七年己丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同十八年庚寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同十九年辛卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同廿年壬辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同廿一年癸巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同廿二年甲午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同廿三年乙未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同廿四年丙申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同廿五年丁酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同廿六年戊戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同廿七年己亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同廿八年庚子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同廿九年辛丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同卅年壬寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同卅一年癸卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同卅二年甲辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同卅三年乙巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同卅四年丙午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同卅五年丁未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同卅六年戊申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同卅七年己酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同卅八年庚戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同卅九年辛亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四十年壬子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四十一年癸丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四十二年甲寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四十三年乙卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四十四年丙辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四十五年丁巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四十六年戊午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四十七年己未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四十八年庚申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四十九年辛酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五十年壬戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五十一年癸亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五十二年甲子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五十三年乙丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五十四年丙寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五十五年丁卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五十六年戊辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五十七年己巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五十八年庚午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五十九年辛未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同六十年壬申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同六十一年癸酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同六十二年甲戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同六十三年乙亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同六十四年丙子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同六十五年丁丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同六十六年戊寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同六十七年己卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同六十八年庚辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同六十九年辛巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同七十年壬午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同七十一年癸未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同七十二年甲申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同七十三年乙酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同七十四年丙戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同七十五年丁亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同七十六年戊子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同七十七年己丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同七十八年庚寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同七十九年辛卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同八十年壬辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同八十一年癸巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同八十二年甲午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同八十三年乙未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同八十四年丙申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同八十五年丁酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同八十六年戊戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同八十七年己亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同八十八年庚子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同八十九年辛丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同九十年壬寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同九十一年癸卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同九十二年甲辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同九十三年乙巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同九十四年丙午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同九十五年丁未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同九十六年戊申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同九十七年己酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同九十八年庚戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同九十九年辛亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百年壬子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百一年癸丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百二年甲寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百三年乙卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百四年丙辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百五年丁巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百六年戊午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百七年己未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百八年庚申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百九年辛酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百十年壬戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百十一年癸亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百十二年甲子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百十三年乙丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百十四年丙寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百十五年丁卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百十六年戊辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百十七年己巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百十八年庚午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百十九年辛未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百二十年壬申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百二十一年癸酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百二十二年甲戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百二十三年乙亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百二十四年丙子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百二十五年丁丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百二十六年戊寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百二十七年己卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百二十八年庚辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百二十九年辛巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百三十年壬午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百三十一年癸未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百三十二年甲申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百三十三年乙酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百三十四年丙戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百三十五年丁亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百三十六年戊子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百三十七年己丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百三十八年庚寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百三十九年辛卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百四十年壬辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百四十一年癸巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百四十二年甲午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百四十三年乙未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百四十四年丙申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百四十五年丁酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百四十六年戊戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百四十七年己亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百四十八年庚子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百四十九年辛丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百五十年壬寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百五十一年癸卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百五十二年甲辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百五十三年乙巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百五十四年丙午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百五十五年丁未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百五十六年戊申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百五十七年己酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百五十八年庚戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百五十九年辛亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百六十年壬子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百六十一年癸丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百六十二年甲寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百六十三年乙卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百六十四年丙辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百六十五年丁巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百六十六年戊午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百六十七年己未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百六十八年庚申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百六十九年辛酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百七十年壬戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百七十一年癸亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百七十二年甲子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百七十三年乙丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百七十四年丙寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百七十五年丁卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百七十六年戊辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百七十七年己巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百七十八年庚午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百七十九年辛未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百八十年壬申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百八十一年癸酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百八十二年甲戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百八十三年乙亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百八十四年丙子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百八十五年丁丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百八十六年戊寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百八十七年己卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百八十八年庚辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百八十九年辛巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百九十年壬午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百九十一年癸未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百九十二年甲申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百九十三年乙酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百九十四年丙戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百九十五年丁亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百九十六年戊子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百九十七年己丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同百九十八年庚寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同百九十九年辛卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百年壬辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百一年癸巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百二年甲午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百三年乙未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百四年丙申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百五年丁酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百六年戊戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百七年己亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百八年庚子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百九年辛丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百十年壬寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百十一年癸卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百十二年甲辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百十三年乙巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百十四年丙午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百十五年丁未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百十六年戊申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百十七年己酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百十八年庚戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百十九年辛亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百二十年壬子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百二十一年癸丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百二十二年甲寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百二十三年乙卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百二十四年丙辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百二十五年丁巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百二十六年戊午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百二十七年己未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百二十八年庚申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百二十九年辛酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百三十年壬戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百三十一年癸亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百三十二年甲子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百三十三年乙丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百三十四年丙寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百三十五年丁卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百三十六年戊辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百三十七年己巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百三十八年庚午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百三十九年辛未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百四十年壬申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百四十一年癸酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百四十二年甲戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百四十三年乙亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百四十四年丙子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百四十五年丁丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百四十六年戊寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百四十七年己卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百四十八年庚辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百四十九年辛巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百五十年壬午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百五十一年癸未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百五十二年甲申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百五十三年乙酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百五十四年丙戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百五十五年丁亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百五十六年戊子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百五十七年己丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百五十八年庚寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百五十九年辛卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百六十年壬辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百六十一年癸巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百六十二年甲午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百六十三年乙未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百六十四年丙申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百六十五年丁酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百六十六年戊戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百六十七年己亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百六十八年庚子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百六十九年辛丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百七十年壬寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百七十一年癸卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百七十二年甲辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百七十三年乙巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百七十四年丙午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百七十五年丁未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百七十六年戊申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百七十七年己酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百七十八年庚戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百七十九年辛亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百八十年壬子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百八十一年癸丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百八十二年甲寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百八十三年乙卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百八十四年丙辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百八十五年丁巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百八十六年戊午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百八十七年己未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百八十八年庚申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百八十九年辛酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百九十年壬戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百九十一年癸亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百九十二年甲子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百九十三年乙丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百九十四年丙寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百九十五年丁卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百九十六年戊辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百九十七年己巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同二百九十八年庚午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同二百九十九年辛未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百年壬申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百一年癸酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百二年甲戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百三年乙亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百四年丙子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百五年丁丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百六年戊寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百七年己卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百八年庚辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百九年辛巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百十年壬午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百十一年癸未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百十二年甲申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百十三年乙酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百十四年丙戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百十五年丁亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百十六年戊子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百十七年己丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百十八年庚寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百十九年辛卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百二十年壬辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百二十一年癸巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百二十二年甲午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百二十三年乙未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百二十四年丙申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百二十五年丁酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百二十六年戊戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百二十七年己亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百二十八年庚子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百二十九年辛丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百三十年壬寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百三十一年癸卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百三十二年甲辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百三十三年乙巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百三十四年丙午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百三十五年丁未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百三十六年戊申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百三十七年己酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百三十八年庚戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百三十九年辛亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百四十年壬子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百四十一年癸丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百四十二年甲寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百四十三年乙卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百四十四年丙辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百四十五年丁巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百四十六年戊午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百四十七年己未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百四十八年庚申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百四十九年辛酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百五十年壬戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百五十一年癸亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百五十二年甲子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百五十三年乙丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百五十四年丙寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百五十五年丁卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百五十六年戊辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百五十七年己巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百五十八年庚午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百五十九年辛未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百六十年壬申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百六十一年癸酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百六十二年甲戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百六十三年乙亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百六十四年丙子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百六十五年丁丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百六十六年戊寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百六十七年己卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百六十八年庚辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百六十九年辛巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百七十年壬午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百七十一年癸未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百七十二年甲申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百七十三年乙酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百七十四年丙戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百七十五年丁亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百七十六年戊子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百七十七年己丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百七十八年庚寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百七十九年辛卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百八十年壬辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百八十一年癸巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百八十二年甲午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百八十三年乙未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百八十四年丙申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百八十五年丁酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百八十六年戊戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百八十七年己亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百八十八年庚子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百八十九年辛丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百九十年壬寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百九十一年癸卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百九十二年甲辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百九十三年乙巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百九十四年丙午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百九十五年丁未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百九十六年戊申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百九十七年己酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同三百九十八年庚戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同三百九十九年辛亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百年壬子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百一年癸丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百二年甲寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百三年乙卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百四年丙辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百五年丁巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百六年戊午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百七年己未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百八年庚申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百九年辛酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百十年壬戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百十一年癸亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百十二年甲子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百十三年乙丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百十四年丙寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百十五年丁卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百十六年戊辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百十七年己巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百十八年庚午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百十九年辛未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百二十年壬申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百二十一年癸酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百二十二年甲戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百二十三年乙亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百二十四年丙子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百二十五年丁丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百二十六年戊寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百二十七年己卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百二十八年庚辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百二十九年辛巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百三十年壬午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百三十一年癸未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百三十二年甲申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百三十三年乙酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百三十四年丙戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百三十五年丁亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百三十六年戊子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百三十七年己丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百三十八年庚寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百三十九年辛卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百四十年壬辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百四十一年癸巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百四十二年甲午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百四十三年乙未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百四十四年丙申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百四十五年丁酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百四十六年戊戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百四十七年己亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百四十八年庚子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百四十九年辛丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百五十年壬寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百五十一年癸卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百五十二年甲辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百五十三年乙巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百五十四年丙午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百五十五年丁未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百五十六年戊申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百五十七年己酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百五十八年庚戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百五十九年辛亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百六十年壬子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百六十一年癸丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百六十二年甲寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百六十三年乙卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百六十四年丙辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百六十五年丁巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百六十六年戊午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百六十七年己未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百六十八年庚申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百六十九年辛酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百七十年壬戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百七十一年癸亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百七十二年甲子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百七十三年乙丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百七十四年丙寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百七十五年丁卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百七十六年戊辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百七十七年己巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百七十八年庚午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百七十九年辛未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百八十年壬申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百八十一年癸酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百八十二年甲戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百八十三年乙亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百八十四年丙子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百八十五年丁丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百八十六年戊寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百八十七年己卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百八十八年庚辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百八十九年辛巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百九十年壬午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百九十一年癸未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百九十二年甲申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百九十三年乙酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百九十四年丙戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百九十五年丁亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百九十六年戊子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百九十七年己丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同四百九十八年庚寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同四百九十九年辛卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百年壬辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百一年癸巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百二年甲午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百三年乙未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百四年丙申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百五年丁酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百六年戊戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百七年己亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百八年庚子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百九年辛丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百十年壬寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百十一年癸卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百十二年甲辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百十三年乙巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百十四年丙午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百十五年丁未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百十六年戊申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百十七年己酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百十八年庚戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百十九年辛亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百二十年壬子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百二十一年癸丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百二十二年甲寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百二十三年乙卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百二十四年丙辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百二十五年丁巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百二十六年戊午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百二十七年己未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百二十八年庚申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百二十九年辛酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百三十年壬戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百三十一年癸亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百三十二年甲子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百三十三年乙丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百三十四年丙寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百三十五年丁卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百三十六年戊辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百三十七年己巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百三十八年庚午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百三十九年辛未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百四十年壬申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百四十一年癸酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百四十二年甲戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百四十三年乙亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百四十四年丙子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百四十五年丁丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百四十六年戊寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百四十七年己卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百四十八年庚辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百四十九年辛巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百五十年壬午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百五十一年癸未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百五十二年甲申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百五十三年乙酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百五十四年丙戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百五十五年丁亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百五十六年戊子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百五十七年己丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百五十八年庚寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百五十九年辛卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百六十年壬辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百六十一年癸巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百六十二年甲午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百六十三年乙未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百六十四年丙申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百六十五年丁酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百六十六年戊戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百六十七年己亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百六十八年庚子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百六十九年辛丑正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百七十年壬寅正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百七十一年癸卯正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百七十二年甲辰正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百七十三年乙巳正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百七十四年丙午正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百七十五年丁未正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百七十六年戊申正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百七十七年己酉正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百七十八年庚戌正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百七十九年辛亥正月廿一日為南禅寺第百十世住持同五百八十年壬子正月廿一日為相国寺第百十二世住持同五百八十一年癸丑正月

女子
母同

青木織部　三左衛門　彦兵衛

義林
母家女

宝暦九年己卯七月廿四日
于麻布瑞聖寺
照蒼明智大姉

宝永六年己丑十一月九日
于寒室良天信

女子
母同

青木彦兵衛
于梅林院花巖春香

宝永六年己丑十一月九日
于寒室良天信

集
母同

元文三年戊午五三歳相嗣
為小普請能勤而卯五月廿
延享四年丁卯五月為宮
寛延二年己巳九月病
宝暦十年庚辰三月六
安永二年癸巳四月
青木織部　三左衛門　彦兵衛

女子
母同

天明四年甲辰十月廿八
文化十四年丁丑八月
于明安院殿心誉春山居

女子
母同

柳原隼之助
寛政六年甲寅六月九
于御寿院殿高山妙望大姉

女子
母同

野澤源左衛門
寛政六年甲寅六月九
于御寿院殿高山妙望大姉

女子
母同

岡部久五郎
宝永五年戊子十二月九日
于梅林院華巌光春童子

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

青木長九郎

義知

母家女

妻渡邊

白屋三百七十四年

宝暦十二年壬午二十四歳 御目見

天明五年乙巳八十一歳 御留守居

旅宿寄老中列坐 御出羽守殿

同年十二月二十六日 御番医師寄合

寛政八年丙辰九十二 御病気

宇和元年壬申二十八致仕

寛政四年壬子六十九

子孫先院殿明誉惠照秀禅

義信

母同

青木右近

宇和元年壬申二十八家督 御留守

為御番諸士多兵庫北

南四年乙酉二十二 御番十番

義永　肯木太兵衛

妻同

法國近江

文政十年十月廿六日拜
方神君ノ命ヲ以テ後為方術番賜
寛永二年ヲ以賜　御朱印
御墨物金五千両同十年金百
同十八年ヲ以テ元年ヲ加ヘ二百石
弓自性院殿尊香淨蓮禪
喪童　又戒

江州甲賀郡内佐野邑山上世二居

始與五郎

義精　青木久左衛門

妻　母

慶長元年甲申生於江州甲賀郡

同十七年子出于江戸祥
大神君旅館而為中小姓大坂番仕
元和二年寛出江戸番仕
台徳公為焼火簡中番
寛永五年辰ノ年於駿府
豊島刑部而夏深創負命
竿鏡菱院殿圓蒼華輪公荷屋

某 青木久助
女

寛永五年辰年父死去時若母胎内
告之此若男則為父跡式之意
同八年未十一月二百石被収

新発

義十 青木與五郎
女
寛同姓右兵衛永三男
寛母奥田勘左衛門
妻 大沢右京亮 寛助十郎妻女

市左衛門

為同姓久左衛門義精名跡被仰付
寛永八年申也同九年酉年賜音像
正保四年子年九
月父九左衛門病死ニ付同姓勘解由
延宝三年卯年九ニ而被為召出
御小普請広田備後守組ニ而
御勘定

女子

元禄九年申年十二月九日死
寺 法華院殿妙誉如海日栄信士
石川藤兵衛 通称

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

喜治 母従一位助十郎重孝
　　従四位上侍従兼上総介
　　実 伯耆守松平宣富次男 松平主殿頭

幼名三十郎 寛政二年十月五日於江戸
延宝六年戊午十二月九日生
年僅三百俵同年十九日元服
天和二年壬戌六月六日叙従五位下侍従
十二月在番中御改同三年癸亥正月廿九日叙
五位 元禄元年戊辰十一月十二日拝左近将監
同十二年己卯十九日賜御劔金四枚同十五年壬午九月
新御番伊沢右兵衛組宝永二年乙酉
正徳元年辛卯五月廿五日
兮溪院 院路通善性達居士

義胤 清水吉次郎
　　実 堀田相模守正俊四男 母 堀田孫兵衛女
幼名三十郎 寛文二年壬寅生 延宝八年庚申七月廿五日
元禄十三年庚辰七月廿日 従五位下侍従
宝永六年己丑四月廿六日 御免
正徳元年辛卯十月廿日 御免中列
享保九年甲辰十一月十五日 寄合
同十四年己酉二月九日 卒 法名清隆院殿
　　清水吉次郎 母 松平隼人正女
　　実 堀田相模守正俊四男 母 堀田孫兵衛女
義胤 幼名三十郎 寛文二年壬寅生 延宝八年庚申七月廿五日
元禄十三年庚辰七月廿日 従五位下侍従
宝永六年己丑四月廿六日 御免
正徳元年辛卯十月廿日 御免中列
享保九年甲辰十一月十五日 寄合
同十四年己酉二月九日 卒 法名清隆院殿
　　清水吉次郎 母 松平隼人正女
義豊 幼名三十郎 母 松平隼人正女
為養子 義胤養子

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

義豊　普本甚次郎　市左衛門　左兵衛

室　壹岐

壹岐

宝永二年乙酉十九年小田原中備

正徳元年辛卯十五年養子　宗十郎　後為中書

当家列座十年庚辰為中書番之時野守

同十五年庚辰六十九歳

寛保元年辛酉十月九日於牡丹寺山備前守組時御用銀下行

自道中人馬　御書附写　此節当日御達

御免被　仰付候　御家督之節七百石

宝暦二年壬申七百石　為右御加増

明和四年丁亥十三　御附添御上京之節

十壹俵　於京都病死

寛政十年戊午五月五日　養子

弓箭書院殿御番　後為山居

義笑　普本甚次郎

妻　同姓壹岐

女子　母ハ西妻

仕牧野日向守乃奥老女

女子　母

大奥吉岡頭　寛政年中

義笑　普本甚次郎

壹岐

文化四年丁卯九十五歳　小田原中橋

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

寺像ク
寛保二年壬戌十六日於當御屋敷方御番ノ旨於當御役所御褒申刻
松平左近将監傷ク
宝暦七年丁丑二月為冠中納言
宰相園基雅朝臣寛政十年戊午七月為冠
権大納言傳奏ノ為勅使清水権少納言
義著 元
著ノ

女子
幼女
早死ノ旨
奥方附ノ頭

義著 青木備之助 市左衛門
寛政
妻ノ母ノ事
妻 少進数(系書)上野権次郎 神方御附ノ頭 土屋釆女源友昇 丁酉 文政八年乙酉

宝暦五年乙亥十一月廿五日生 於書
天明四年甲辰八月為養子 自水野出羽守忠
寛政十年戊午八月一日為養子 改姓
同年十二月四日於御目見 同月廿三日
為小普請ニ於書院番被召加 御褒詞
ノ旨

義 青木又四郎
妻 御書院番 近藤小十郎 三男

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

義
母
青木又四郎
青木藤次郎
母
青木鎧次郎
母

義継　青木又四郎　新五兵衛　遠江守
母　婚
慶長十四年二月廿九日卒
元和九年三月廿六日始拝
二代　同十年三月廿二日叙従四位下侍従
同十年三月廿二日於二百石合賜采地一千石
正保五年四月廿五日卒
法應二年十一月八日　叙諸大夫改遠江守
寛文十年九月八日病辞為寄合同十二年十月廿二日卒
子孫作事奉行　元和二年三月廿七日病辞為寄合
同二年三月廿二日致仕
元禄七年十二月八日卒
三代　青木鎧次郎　新五兵衛　遠江守
母
慶安二年十月廿六日賜二百俵
同十年三月廿二日於二百石合賜采地一千石
同十一年三月廿二日卒
子孫作事奉行　元和二年三月廿七日病辞為寄合
同二年三月廿二日致仕
元禄七年十二月八日卒
四代　青木藤次郎　新五兵衛　遠江守
母
寛永二年四月廿日賜二百俵
同十年三月廿二日於二百石合賜采地一千石
正保五年四月廿五日卒
法號二年十一月八日　叙諸大夫改遠江守
寛文十年九月八日病辞為寄合同十二年十月廿二日卒
子孫作事奉行　元和二年三月廿七日病辞為寄合
同二年三月廿二日致仕
元禄七年十二月八日卒
五代　青木鎧次郎　新五兵衛　遠江守
母
慶長十四年二月廿九日卒
元和九年三月廿六日始拝
二代　同十年三月廿二日於二百石合賜采地一千石
正保五年四月廿五日卒
法號

義十　青木與五郎　市左衛門
　妻　同姓久左衛門義精養女
女子　山本治左衛門

義重　青木新五兵衛
利良
　母

寛永廿年癸生於江戸　幼名熊之助
幼見寛文七年三月十九日任大御番組
同五年七月廿五賜二百俵
天和二年壬戌二十五歳初而勤仕
同四年子卯子二十家督相續
貞享四年卯年二月廿六日病死
十二月廿六日　同五年辰ノ七月廿三日
元禄二年巳年十月廿五日　同三年午ノ
十二月廿五日　同十二年卯年九月廿
三日　同十三年辰年十月廿五日
銀二百廿枚　同十二年寅四月廿八日
合賜二千十石　同年五十五歳
宝永七年庚寅十一月廿五日
為寄合旅行　名筆ヲ以願
為寄合旅行　名筆ヲ以願
為寄合旅行　名筆ヲ以願

義　青木久太郎

母

元禄四年辛未閏十二月廿九日叙従五位下侍従
賜二百俵
享保元年卒

无

久太郎

豊松　横田甚左衛門

母

始源次郎

為横田平八郎氏相
養子

義朗　青木久右衛門

母

始久五郎

享保元年卒十五歳
為本家相続移跡部勝成家中
同廿年七月二十八日
番山井多守組

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

女子 母同

女子 母

女子 母同

黒川與兵衛尉敦孝

櫻井又房 壽

寛文十二年子十五歳後

諏訪壹岐守頼水 妻

寛文十二年子十五歳後

義

男 母同

男 母

男 母同

肖本主税

母大田善左衛門尉女

妻 能勢出雲守頼相女

文禄四年乙未歳生

江原孫之丞

文禄元年壬辰十二月廿五日生

慶長十九年甲寅十月廿九日死年

廿三寿院殿性誉貞真居士

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

某　青木五郎
　女
文禄十二年癸卯八月廿日始　御目見
宝永二年乙酉八十四歳
于到院陸奥守従四位下帝鑑間詰

某
義綱　青木新九郎
　女
　妻稲生七郎右衛門尉
　　女
　宇佐美孫三郎定祐
　同十八年庚寅六月廿五日
于安藤対馬守傳之為士番詰
　　女
　宇佐美孫九郎定堅
　同十八年庚寅六月廿五日
于安藤対馬守傳之為士番詰

義芳　青木巳之助
　女
稲生七郎右衛門尉
宝暦十二年壬午十二月
為士番詰　　詠目二十五歳
明和八年辛卯二月廿日
于西丸御書院番
安永元年壬辰十二月廿四日
于勇断院殿　高雲勤功道俗
　妻播陽意院

義芳　青木巳之助
　女
稲生七郎右衛門尉
宝暦十二年壬午十二月
為士番詰　　詠目二十五歳
明和八年辛卯二月廿日
于西丸御書院番
安永元年壬辰十二月廿四日
于勇断院殿　高雲勤功道俗
　妻播陽意院

御老中列坐安藤対馬守傳之為士番詰
同九年庚辰二九組御行襖御方鉄馬代
播州守組同年十二月五日為二丸御小性組
同十二年癸巳四月為酒井因幡守組
宝暦十二年壬午十月六日
于信恵院殿高雲閑居求道居士
　妻播陽意院

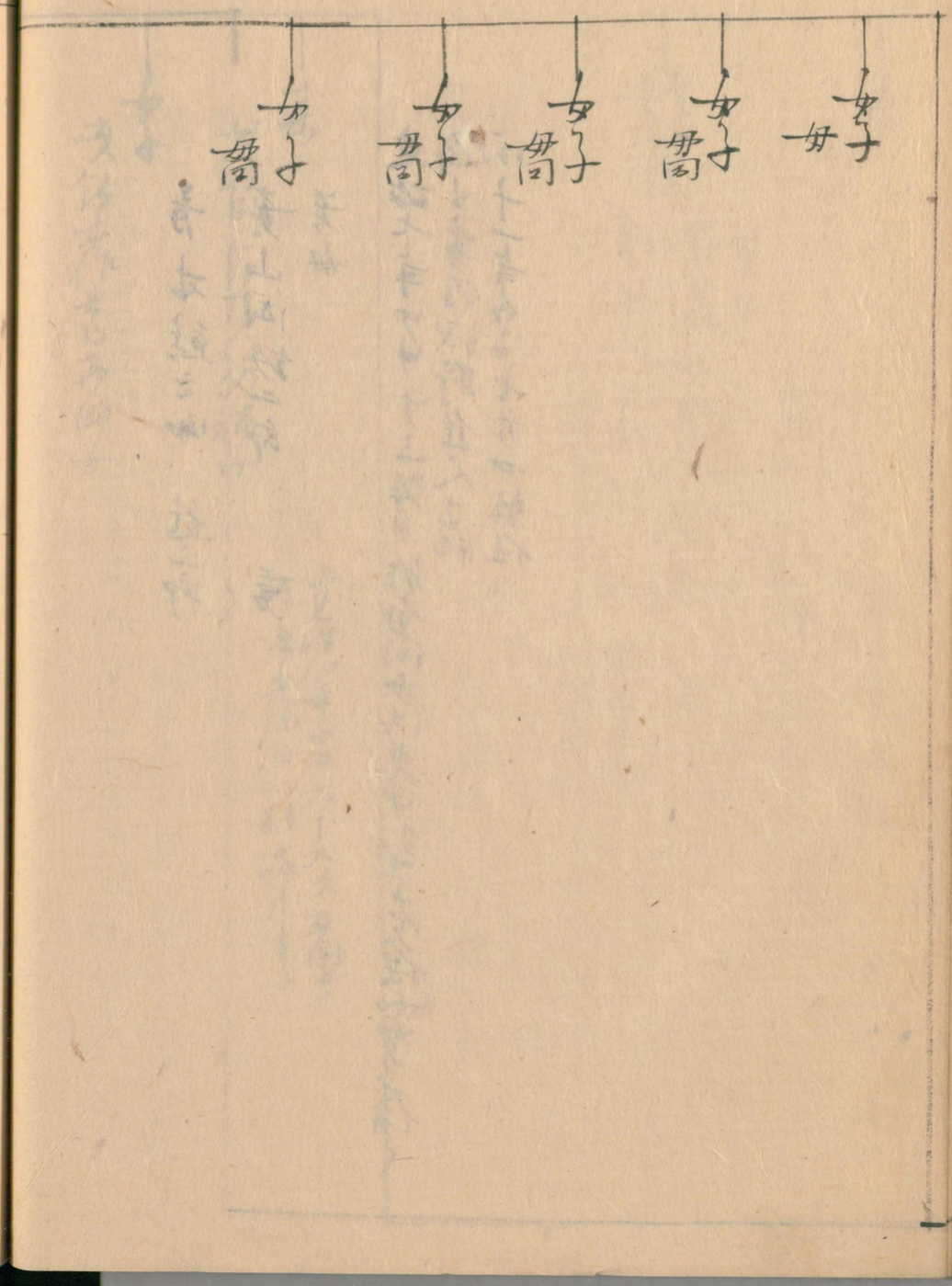
寛政三年辛亥二月廿二日始拝
台顔御刀鉄馬代　同八年丙辰十月廿日
于安藤対馬守傳之為士番詰
　女
宇佐美孫三郎定堅
同十八年庚寅六月廿五日
于安藤対馬守傳之為士番詰
　女
宇佐美孫九郎定祐
同十八年庚寅六月廿五日
于安藤対馬守傳之為士番詰

某　青木五郎
　女
文禄十二年癸卯八月廿日始　御目見
宝永二年乙酉八十四歳
于到院陸奥守従四位下帝鑑間詰

某
義綱　青木新九郎
　女
　妻稲生七郎右衛門尉
宝永元年甲申九月廿日
于従二位勇断院殿法印定雲

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用



青木寅之助

寛筑紫代渡守
室毋　二男

文政十一年父子七十四家督二千石
加賀守傳之為小普請浅野隼人支配同年
冬十一月廿一家智沙襲職
而歩兵中尉世青山下野守傳之

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

竹内孝仁

女子

文元年乙酉卒住 神田御殿中稚狭守養

道秋 青木八郎兵衛

女子

慶安四年卯 神田御殿中賄方中嶋伊勢守組与力相勤後

小姓為土芸指

移移 寛文元年丑加中俵合六十俵宮

元禄二年巳四月死年六十 幸小石川 金剛寺

勝山宗所居

道常 青木猪助

女

貞享二年丑二十六死年 金剛寺

号相伯宗観信

善明 青木覚之丞

女子

元禄二年巳七十四賜月俸右於之間可相勤旨被仰渡

本多隆吉番頭組同年九月三日 相伯沙番同三年午七月二日病死

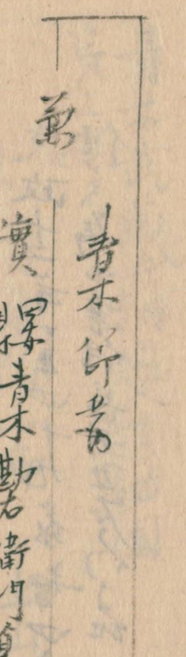
無程為中喪神葬等為仰付組同九年申五十九死年

号一貫 金剛寺

浩元 青木忠八

元禄七年戌二月死 安国寺

于徹山宗居



善隆
清末御供平
妻吉山十郎兵衛尉女
女子保十二年卯年二月廿七日於菊御所光中刻誕生
為母善清公御供平
子保十三年申年十月廿二日
号清了院殿
妻吉山十郎兵衛尉女
子保十二年卯年二月廿七日於菊御所光中刻誕生
為母善清公御供平
妻吉山十郎兵衛尉女
女子
妻大宇
妻大宇
妻大宇

青木孝之助

寛
寛女

文政十二年正四十九歳嘗四十俵於菊岡而少老中列坐大名保加賀守傳之為出養嗣嘉永五年八月卒

出江

青木 本國近江

青木武蔵守 才通文道祐國第二男

重頼 青木阿之助 上山民部

生國近江

始居于江州甲賀郡上山

家頼 青木義作守

生國近江

居於甲賀郡上山属佐々木六角義弘

明應年中軍励戦功

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

長頼 青木 兵作寺
生於江州
居於江州甲賀郡出山為甲賀之旗頭 爲一方
青木民部 子
重藤 生於江州

安頼 青木帯刀 子
生国近江 爲作寺
爲一方領主 守
淨林清月大養主

女子
某 青木半助 子
生江戸

女子
江州甲賀
大平 長門守 淨堅 子

法頼 青木 數馬助 長子 尉
母方平子 家筆
生於江州
仕信長後秀吉賜江州甲賀郡於福島左衛門大夫正則 令守甲賀
諸士為西則之麾下 是時甲賀諸侍不従于西則而執左法頼示
去江州 爲於織田信雄 慕士
十二年甲申小牧 等於尾州清洲 命于
方神居而往行焉 帥旗陣時供奉于
巡視時供奉還御于濱松時
日於池田舟中而死

女子 大平上野介 子
女子 源利郎
妻

高頼　青木又太夫　五左ヱ門
　妻
　生於江州
　又死後於遠州濱名
　方住居其後小田原
　台徳公信州勇士
　青昌寺上總武射郡
　正保二年乙酉

青木牛之助
　妻
　正保二年乙酉十二月十九日
　明暦三年丁酉十一月廿五日
　号透岳宗閑居士

頼　青木又左ヱ門　五左ヱ門
　妻
　明暦三年丁酉十二月廿五日
　万治二年己未七月
　延宝四年丙辰
　号

女子
　阿信ハ子重重篤孝
　孔

宇頼　青木又市　又左ヱ門　市助兵衛
　妻
　寛文九年己酉六月廿四日
　延宝四年丙辰十二月廿日
　同五年丁巳五月御書院番
　稲葉丹後守組同年八月御屋敷番

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

同六年八月十六日改府号為寿福寺
改番後告病辞為十善寺大島肥前守
正徳五年七月正四位
号観照院憲空祐尊尼
妻

正周
母
青木小十郎　市郎兵衛尉
妻羽太権兵衛
妻
正徳五年乙未二月七日自害
山城守傳く為中書緒大島肥前守
従五十石旅翁御老中列座ニ而
妻羽太権兵衛
女
宝暦十一年辛巳二月九日死去寿福寺
号智性院桜山理英大姉
正隆二年庚辰四月死去寿福寺
号妙善院春林智重尼

孝保
母
女子
女子
母
寺保二年酉三十六歳書院番ニ而
寛延四年未二月二日死去
号高徳院殿律應宗参居士
寿福寺
日根野庄次郎
木村　藤九郎
元真
寿
致仕状残

談頼
青木小十郎
母羽太権兵衛
妻大久保一郎左衛門忠
女
安永七年戊戌十一月五日縁同九年庚子十
二月朔日死去寿福寺地中蔵源軒住職

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

寛延四年未　源自喜為土佐守従五位下
為土佐守従八勝左京亮ト配
宝暦二年壬申二十九為御書院番佐野右兵衛尉
寛政四年子二月六日老病辞職金二百疋為小普請
同　年　被仕改快哉

女子　母同

信正　小林源五郎
母同
為小林

正之　小林小膳

服部源兵衛　寿

実頼　青木新五郎
母大久保一郎右衛門女

寛政　年　寿智六百石
為小普請
享和二年壬戌六月死　寿松源寺
子篤信院殿成林実頼居士

文化八年未十月死　寿松源寺
子蓮寿院殿春屋妙喜大姉

元建　木村富之助
為木村　母同
陸奥元吉等養子

長塩長五郎
母
為長塩氏所收養子
女子
母

正

青木小十郎
母

享和二壬戌九十一歳
傷寒ヲ病ミ喪室賀氏ニ先ダチ
文化十四丁丑六十六ヲ以テ卒
推祖

女子
母
女子
母
女子
母

青木鋳太郎
母

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

文政五年壬午六月二十五日
于清秀院梅香浴身居士　春秋廿四等

清和源氏

青木　本國甲斐　紋花菱

新羅三郎義光三男　武田刑部丞

義清　武田刑部丞

清光　逆見黒源太滿

信義　武田太郎

男　信光　井澤五郎　武田伊豆守大膳亮

男　信長　一條六郎　南　信經　一條八郎　時信　一條源八甲斐守

一條與一大夫

信重　一條與一

實頼　一條與三

義行　一條與一大夫

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

- 鬼連 蒲冠衛門尉
  - 宗景 一条七郎
  - 貞家 一条九郎
  - 時光 青木十郎
    - 源光 青木別当
    - 信源 揚根寺別当
- 信連 青木十郎 尾張守
  - 義遠 青木十郎 第遠 青木十郎
    - 貞義 青木十郎
      - 義光 青木十郎
      - 経光 青木十郎 左甲州巨摩郡青木

- 信重 青木 尾張守
  - 信種 生国甲斐 住甲州巨摩郡青木郷 領甲州巨摩郡青木郷
  - 信立 一説 青木 與兵衛 尾張守 卅餘不伊勢守 女 永正十五寅年生於甲州住甲州巨摩郡青木郷 領甲州巨摩郡青木郷 天正十九年辛卯七月三日
    - 信重 青木 勘六郎
    - 信光 青木 與八郎 住甲州巨摩郡青木村 松住信玄義信 藤八郎 後改 川中島中務丞 信正 信玄 庶子 信廉 武田四郎内 正五ノ子

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

信寺　青木與兵衛　尾張守

一切

仕候ニ付而ハ頼朝公御厚恩之御奉公ニ可仕覚悟ニ候間此書状ニ名判被成下候ハヽ後代迄之家ニ可為重宝候

大神君御対陣之時分信寺儀も武功之者ニ候間為御加勢ニ可差遣旨被仰下候ニ付而ハ御家中之諸方ニ右之御状ニ准し候書付ニ名判を被成下候ハヽ後代迄之家ニ可為重宝候

討死之節ハ新府之御陣所ニ而御腹被召候様ニ被仰渡候

甲斐守殿

慶長十年乙巳

小月十六日

大久保新十郎殿

慶長十年乙巳

小月十六日

筆

大久保新十郎殿

甲斐守殿

慶長十年乙巳

小月十六日

筆

大久保新十郎殿

甲斐守殿

慶長十年乙巳

小月十六日

筆

大久保新十郎殿

甲斐守殿

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

村上伊勢守
信冬
実青木彦兵衛次男
実母武田不男守女

信濃守
青木與兵衛
尾張
切

仕信玄嗜頼領中州巨擘御屋方為御使信豊秀頼全剋札
書其雄二字賜毎戦偽毎戦功
天正十年三月廿五日
方神君御対陣信濃始終不離而為御使
而一同不首刺
討策実歟新府之御陣所行慶称斜陽
後

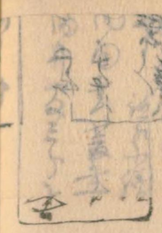
甲斐守
実父
右京亮
如件

大学
小四郎
実父
信濃守
如件

甲斐守
実父
右京亮
如件

大学
小四郎
実父
信濃守
如件

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用



文安二年七月廿三日 法名道圓 真田弥平兵衛尉幸隆 天文十年七月廿三日 法名道合 真田弥平兵衛尉信綱 天正三年六月十七日 法名一徳斎 真田源太左衛門尉昌幸 慶長五年閏八月廿日 法名安楽院 真田伊豆守信之 寛永十六年六月廿六日 法名大輪院 真田信濃守幸村 慶安二年五月十九日 法名大智院 真田大助幸昌 寛文十年四月廿四日 法名大光院 真田伊豆守信利 元禄十六年十一月廿三日 法名大円院 真田信濃守幸弘 享保十九年十月廿一日 法名大成院 真田伊豆守幸道 宝暦十三年十月廿一日 法名大義院 真田信濃守幸弘 寛政十年十二月廿一日 法名大儀院 真田伊豆守幸貫 天保十四年十月廿日 法名大徳院 真田信濃守幸教 嘉永二年十月廿日 法名大恩院 真田伊豆守幸良 文久二年閏八月廿日 法名大義院 真田信濃守幸民 慶応三年十月廿日 法名大義院 真田伊豆守幸教 明治二年六月廿日 法名大義院 真田信濃守幸民

信尹 真田源太左衛門尉 母 山寺氏

信昌 真田源太左衛門尉 母 横手氏 某 孔

信幸 真田伊豆守 母 高屋氏 高屋甚右衛門尉 女

信伏 真田信濃守 母 柳澤弥助正 女 文禄二年六月廿日 法名大智院

信俊 真田伊豆守 母 菊 天文十九年四月廿日 法名大光院

信昌 真田源太左衛門尉 母 青木清左衛門尉 女 寛永十年七月廿日 法名大義院 真田信濃守幸昌 寛永十年七月廿日 法名大義院 真田伊豆守信利 慶長二年十月廿日 法名大義院 真田源太左衛門尉信昌

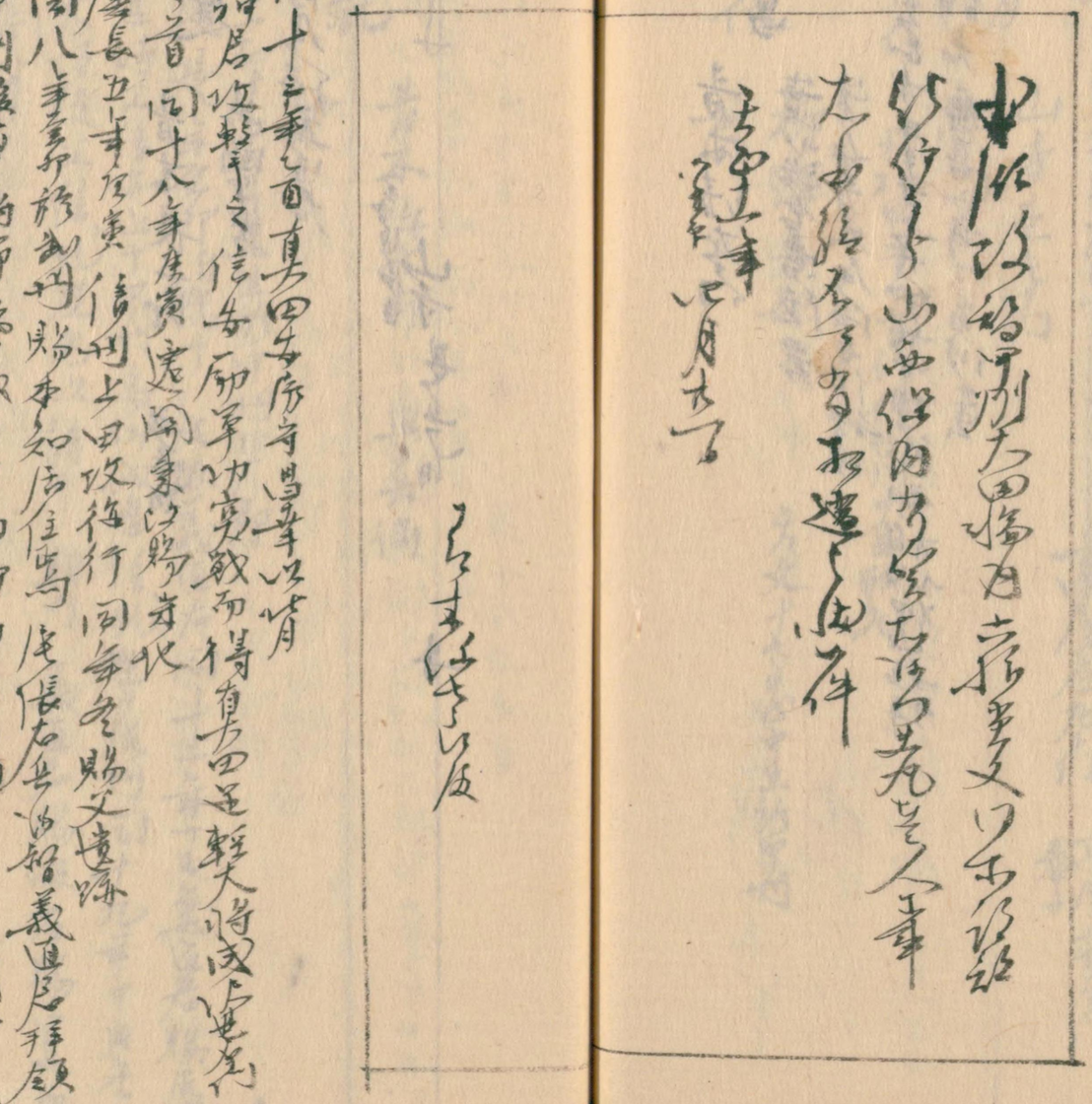
信次 真田源次郎 母 青木源次郎 曲淵 女 為曲淵勝左衛門尉養子

信安 真田源太左衛門尉 母 青木陳七郎 女 永禄七年子生 於甲斐国誕生 初称與兵衛 後改馬回信章 初而源見 負傷於鉄炮

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

出兵信安突戰旅勝頼眼前而父同盟軍功令相討得真意
出利景此軍有志健し如拳動向知行而貫汎收し我真實
失等而し賜信安信安此時使者也十四年三年勝頼之後
又同通方
方神君自仕修令道有計策而不諾同事於前廟四拜
方神君賞中澤新吾同行維盛方而人訴功
同十二年春賜宇修し 何某印



同十二年三百貫四字房守昌幸以情
方神君攻撃之信安卿軍功実戦而得真田是軽大将成業者
之首同十八年庚寅遠州高天神城落城
慶長五年庚寅信州上田攻後行同年冬賜父遺跡
同八年癸卯於武州賜采地知后住馬庄名改称義直居拝領
甲州後有 鈞命属義直動御初度番同十二年丁酉冬大
義直居轉甲州賜度州自是為子孫代城番同十九年甲寅冬
方仕役領所等鞆志录動甲府城番同北条事而
詔訪国幡守自是子孫代城番
文和元年壬辰属于駿河大納言忠長卿
同年 北年六十七歳

女子

信友　　肖本清之卿　　次妻
　　生國甲斐
　　住居未詳

信道　　肖本長之卿　　五男
　　生國甲斐
　　住居信濃國

子子

　　多田院住
　　山寺甚兵衛

寺

信就　　肖本陸七郎　　與兵衛
　　卅

文祿十五年丙午生於甲州府中
慶長八年癸卯住府下　　居張義直君同十二年丁未義直君賜屋州
是時父信安出于甲州為州城番信就至
大坂役父信就及老以請于　　朝乃　　義直君賜暇有賜甲斐而
孝住甲
公儀公文和九年癸酉從之道踰為大坂番又原　　忠長卿
寛永九年壬十一月　　老長居配流時為沼人　　勢居同十七年庚申
六月賜月俸十石同十二年乙亥　　徙居配所
步後四山邊郡同十九年壬午為大坂番之久住右京亮組
明曆二年丙申二五死年七十一葬於甲斐富士山長龍寺
子無得道號雲居士

国立国会図書館　　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

青木宗右衛門

信某　母同　寛文八年申年生　長壽寺　十一月廿四日

信行　母　青木源左衛門　與右衛門

寛永十年庚午始　御目見　鳥目百廿一疋　同廿二年乙酉　初而　御供　為大御番稲葉正俱守組二番　期之番　明暦三年丁酉五十九歳　自二百俵　寛文九年己酉大御番組頭　同十二年子大坂在番　御暇　賜銀十枚　"脇二延宝三年乙卯　二百俵　在番　御暇　同四年丙辰九月廿六日　同九年己酉六月六日　寛文九年己酉大御番

延宝二年六月十二日二百俵為小普請
元禄七年甲戌六五才久保玄蕃頭組
本多肥後守組同十二年己卯十二月十九日死

信成　青木久三郎　伊勢守

寛

元禄十二年寅年七十歳にて於勘定所
小普請大久保玄蕃頭組
宝永二年乙酉十一月廿七日死

信成　青木久五郎　清左衛門

母

寺保元年申年十二月五日父跡心得にて出仕
次也大和守傳之為小普請
同十五年寅年十二月七日福島左兵衛督時為大御番
元文二年丁巳年死

信寿　青木友三郎　八十郎

母

元文二年丁巳二百俵にて於勘定所
為小普請
宝暦七年丑五十八自筒井内蔵介跡
天明二年寅年十二月為寄合肝煎番
惣勤為組

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

青木 鈕之助

養子 安次郎 黒野源太左衛門
養母 内藤備後守 猪狩伊孝の
文化十亥年父の跡目三百俵 於菊御番
為小普請

女子 智

浅井五左衛門忠親妻

信峰 養母

青木源助 與右衛門

妻 往生寺 高木忠左衛門為次女

慶安四年卯生於江戸
延宝九年酉七十二歳 内二百俵為小普請 言村年建殿頭組
天和二年戌六十六 大御番 水野周防守組
貞享元年甲子六十七 大坂在番 同二年乙丑九二始有
同三年寅七十七 六 為書翰奉行
元禄十三年庚辰七八 為御腰物奉行
同十五年壬午八十八 為御先手鉄炮頭

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

宝永二年酉戌十一月六日卒
享保八年癸卯二十一年老辞賜時服三領
三百俵 同十二年丁未五月六日卒
法名

信祐 青木與十郎 與兵衛 與右衛門
母高木忠右衛門為次女 寛文二年壬寅正月廿七日卒 法名蘭室真院殿随山年貞性大姉
妻 某 某官某官平山伊右衛門 女 平徳二年庚子十五歳
元禄五年壬申生於江

宝永六年己丑四月十七日為御書院番所組頭
正徳元年辛卯正月為進物番
子 信八 享保八年癸卯七月蒙御暇五百俵
元近 同十二年丁未九月蒙御暇
同十二年己未十七為屋敷改
同十六年辛亥十一月為中奥番頭同年十二
寛保元年辛酉九月為御先手弓鉄砲頭
寛延二年己巳正月十八歳于長壽寺

女子 門奈伊左衛門妻 元禄十四年辛巳七月卒
女子 某 歩士部倉徳殿信政妻 正徳二年壬辰九月卒 法名蘭梅院殿清心妙貞大姉 于長壽寺

女子
母子四伊考乃女

信仕
母同

青木與兵衛

無子

子係十七年子生於江戸
寛延二年巳四歳目五百石行於蓮華院
為士養嗣
宝暦元年辛未十二十七歳葬長誠寺
乃信受院殿蓮宗貫道居士

信命壽
延享二年乙丑五十五歳
子月考院浄国憲明大師

信貴
貴

青木與考乃

宝暦二年壬申二
係百五百石行於蓮華院
傳乃嫡子

寛政元年己酉七月九年
乃信定院殿徳宗貫隆居士
葬於長誠寺

信孝
貴

青木與考乃

貴子多係
貴女

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

豊信　青木宇右衛門
　卅
　元治甲子年賜署字名

俊定　青木勘次郎
　卅
　元治元年仕賜諱名
　日保四年丁亥　元

吉定　青木隊之左衛門
　卅
　正保四年丁亥十二月五日諱名信州沖代官
　寛應二年乙巳八月廿九

信時　青木金五郎　隊之左衛門
　卅

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

承應二年庚午二月廿日卒
延寶二年甲寅為沙門改名
寺住六年壬午十二月九日

青木助次郎
信安　貞明修理亮
寛永二年乙酉二月八日以同姓一族養子譜代
山城守傳ク　同六年己巳四月六日為沙門
正德二年壬辰七月九日

貞明　青木伊織　勘左衛門
女

寺住六年壬午十二月七日卒
傳ク為十善清酒井左衛門尉
延宝二年甲寅九月　日
月付同四年丙辰七月九日

信秀　青木　八十次郎　隆二
女　津軽越中守　辻秀庵　女
妻　福士見義書　河原半左衛門　女

宝暦四年甲戌十月廿日卒右於菊間縁為中善清
為十善清之後嗣和六年己未七月廿四日宛大目
安永八年己亥三月　日宛大目付井上伊勢守
寛政十二年庚申十二月九日

青木八郎兵衛
妻
為青木八郎兵衛妻子

女子
妻
清水大番
辻左文
妹

青木秋助
信定
實杉本進之丞
實母杉本重勝
清水大番
吉川市左衛門
女
妻 辻左文
母
女
妻
青木八郎兵衛
實杉本重勝
妻
女
永四年生於江戸

寛政二年庚戌十五歳于安藤對馬守傳ク
同十二年庚申十二月四日賜二百石ヲ高ヒ奥ヲ武州多摩郡宮
為士番頭宮崎寧親ノ配

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

元禄七年了戌三五三九年六十四歳於四谷雄峰山金勝寺
弓節厳院殿頂心梶忠居士
妻

政武 青木 勘右衛門 小左衛門
母

貞子 二年丙寅三月廿日始
元禄七年了戌七十一歳自四百俵加増
小普請組ニ被召加候
子保元年酉十月九日死 寺号
弓ヒ節厳院 夢窓恵覚居士
妻 金勝寺

政 青木 右京
母

享保元年丙申十二月九歳自四百俵
豊後守傷之為小普請
引
年
為御小普請組
六年辛丑四月九日
号信源院雲外宝白居士
妻 四谷 金勝寺

政長 青木吉之丞
貞
妻 母

享保六年辛丑七月廿四百俵
小普請
宝暦九年己卯九十七歳
弓 雲明院殿普山玄照居士
妻 六郷

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

政行　青木主膳　大膳亮
　　宝山前藤兵衛　就誼官
　　妻母夢子

宝暦二年壬申五月廿五日家督
同年十二月八叙諸大夫任為信濃守
同四年甲戌三十四死去

政満　青木小左衛門

　　妻
　　妻母

宝暦九年己卯十二　弥四郎
傳ク為ス無嗣
年
安永五年申十九為同役頭同年十二月廿五日
病死

大明二年壬寅九十二死年
于曹雲院殿銘岳流妙居士

政　青木武部　小左衛門

　　妻

宝暦四年甲戌生於江戸
大明二年壬寅十二四月廿日
為十五歳
四百石無役外百石為寄合席

安永四年乙未三十五父喜晴隠
于梅岑院悉林智雪居士

政豊　青木兵五郎　小太夫

政　青木郷之助

室

男子

文政十三年庚寅十二月晦日署名於芳岡而中老中列坐矣

源姓

青木

本國甲斐　紋　花菱　上羽根　九曜

正定

青木小右衛門

慶長年中在大神君為御賄頭賜黄金
承應二年九月九日年
于春堂了告居士

正重

青木小吉　市兵衛

元和八年戊午従為小花畑御番稲垣若狭守組
寛永四年丁卯九月大御番頭十事首座

同十七年庚辰六十三於二條在番而死葬于法華寺
号心宝寿了居士

女子
婚

信久　青木次郎兵衛
母

寛永十七年庚辰廿日賜二百五十石在番而死葬于池上本源寺
正保二年乙酉六月廿番二番之内加番二番之内
寛文二年壬寅九十四於大坂在番而死
号明因文庭居士

信知　青木大助　太郎右衛門
母

妻本間五郎左衛門孝治女
延宝元年癸丑五月卒高龍寺

寛文二年壬寅十二廿五廿日三百五十石為小普請入保右京亮組
延宝五年丁巳九十二大坂在番植村左近将監組
松平安房守組正徳元年辛卯七十九歳新番
享保二年丁酉十二月六依老衰辞職金二枚旨水野和泉守
傳之為小普請出入保右兵衛尉組同年
死

延秀　中川三十郎　新左衛門
母

寛文二年壬寅九廿二為中川新太郎忠政養子

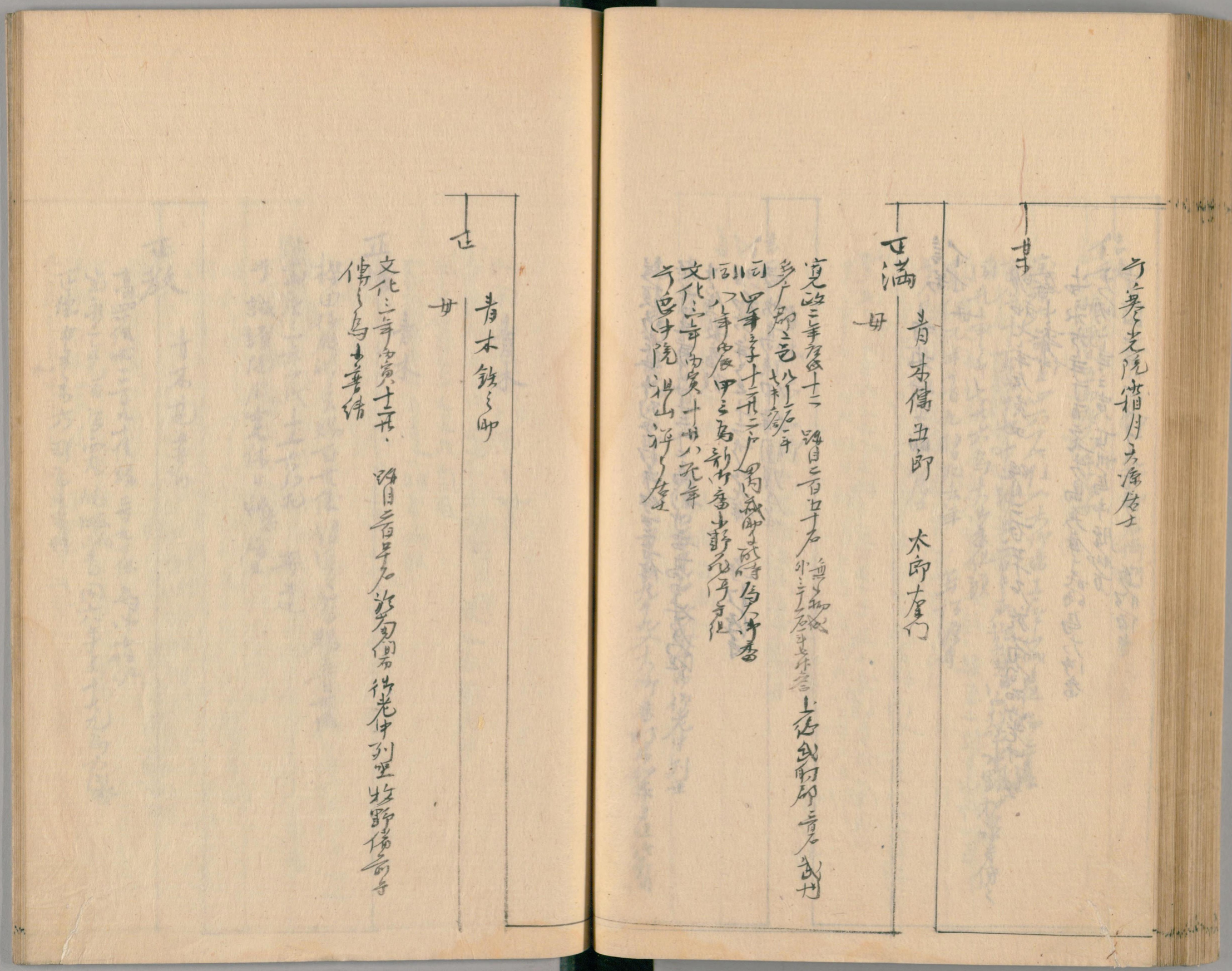
信秋　青木二五郎　市郎右衛門
　母尚五郎九ノ手ヨリ
宝永六年丑四六人仕ノ大御番土屋山城守組物ノ番
享保十三年申中七十二跡目二百石ヲ以テ御番組頭
　水野和泉守傳ク
寛保元年酉九月死去年
　寺社源寺
　子自性院微妙尊尼

信富　青木右ノ助
　母
寛保元年酉十一　跡二百石ヲ以テ御番組頭
為十五俵二人扶持　水野和泉守傳ク
延享元年子十二月十二日ヨリ御小普請
宝暦九年卯九月大御番ヲ勤ル
　寺社源寺

信保　青木百之助
　母
明和七年庚寅四　跡二百石ヲ以テ御番組頭
為十五俵二人扶持
安永六年丁酉七月島兵庫頭ヨリ大御番
天明二年壬寅正月大御番ヲ勤ル
寛政二年庚戌十八死去
　寺社源寺

緑須　青木百之助
　母
延享元年子十二月十二日ヨリ御小普請
宝暦九年卯九月大御番ヲ勤ル
明和六年丑十二月九日死去
　妙高院伊峰圓順尊

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用


女
女
女

青木

正種 ― 青木

楼田御殿ヨリ賜百卅俵後ニ又加賜三百卅俵
宝永二年六月九日 寄合
于誠謹院殿 定休日御暇

正敬 ― 青木甚吾

高四百俵 二百九十俵賜 旨九十俵為御借上
宝永二年九月廿日 寄合 免 焼火間
正徳四年三月六日 評定所 評定
享保元年十月九日 大御番

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

長岡　青木右京
　母
安永七年戊戌八月二十日召出
為小普請神尾若狭守組
寛政五年癸丑二月廿四日御役
　始ル

満昊　青木甚五郎
　母　小笠原勘解由娘
文化九年壬申二月廿日命旨
安永二年癸巳二月廿九日為小普請内藤外記組

元良　勝　甚之助
　母
為小普請内藤外記組
寛政五年癸丑二月廿日御番

藤原

青木

本國近江

法名材元純

高江

蒲生小次郎　左衛門大夫

今摂政院真清

梵純

青木五郎　二河守

初青木武蔵守教方女

嗣母方祖父青木五郎尉貞矢ノ遠孫　青木武蔵守教方

領紀州加賀郡内　各拾七貫文

天文九年庚子四月九日

法名材元純

秀遠　青木土佐守助
　信濃甲賀郡
　後改下野守久政

秀紀　青木四郎兵衛
　又元云往駿府江甲賀郡住所
　為忠已刻　帰名為　寛永八年辛未元年六十四
秀清　青木新吾
　付青木氏初名

秀岸　青木五郎兵衛
　信甲賀郡
　後備前守光政　光政実元

忠元　青木四郎兵衛
　当国近江

信住于江州甲賀郡
寛永二年乙丑九月九日卒土

生重　青木主計之丞　号七
某　青木兵四郎
某　青木伝四郎
子

忠英　青木忠左衛門
　生国近江
文禄十二年辰四出於后戸
同十四年乙酉九月九日初見村　宝永元年甲申十月十九日卒
正徳二年壬辰五月二日　御目見
主計之丞時御名重之

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

元文二年丙午二月九日
于徳受院殿因幡光威宗衛公

忠記　青木忠之助　葬於高野山無量院
　妻　
　　元文二年丙午
　　為十善僧
　　明和八年辛卯四月二日卒
　　于為徳院殿日誉端心玄義居士

　信　
　　元文二年丙辰
　　于別誉重(?)法師

某　

忠盈　青木内匠
　妻　
　　明和八年辛卯七　月廿日卒
　　為十善僧
　　同九年壬辰八十七忌辰
　　于徳源院殿信誉重因成覚居士

忠陽　青木記之助　姓菅原氏
　妻　清水氏智香
　妻　
　　寿
　　安永元年壬辰十一　月廿日卒
　　于為徳院殿信誉重因常光居士

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

源姓

青木

本國武藏

改二引両二引両

義峰

青木右助右衛門

義長 青木十九介

寛文二年参河正新規御抱入為御徒席安藤傳介組

延寶五年丁巳

九

長四日 卅

青木彦左衛門

延寶五年丁巳父跡為御徒席多久五助組

九

長義　青木彦次郎　母

宇保二年丁酉父跡為御徒　西丸
西十五年庚戌　死

長貴　青木彦九郎

實浪人　松田甚左衛門勝貴男
實母浪人　鈴木勘右衛門女

妻　猪俣小兵衛　秀晴女

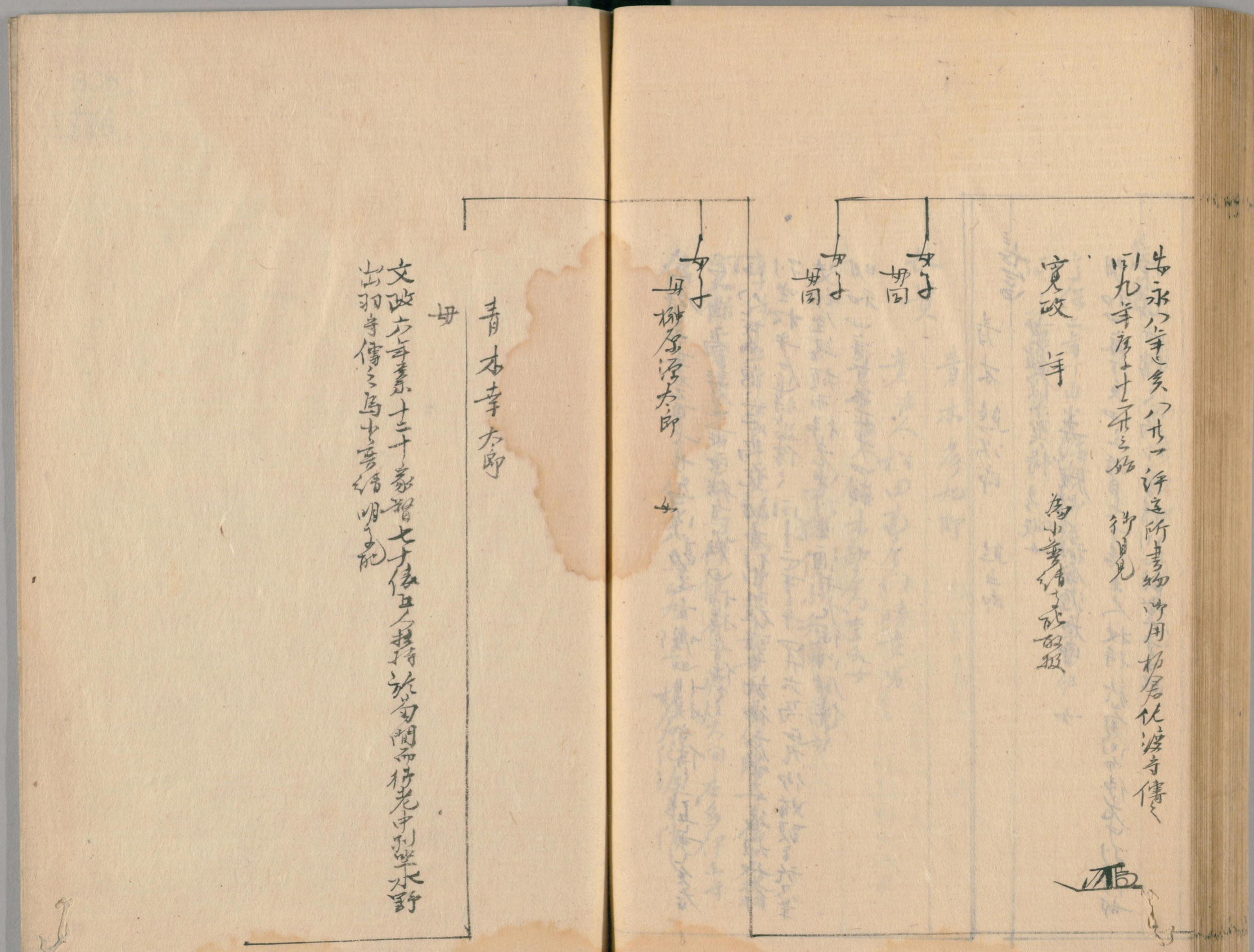
享保十五年庚戌十二父跡為御徒　西丸
寛保二年壬戌十九為御徒目付　於焼前本多伊予守
傳ス延享二年乙丑八十六為西丸御賄頭　於雉子間
宝暦二年壬申七十二為西丸御勘定吟味役　於同所
列坐松平右近将監傳ス　同年為勘定奉行　於同所
列坐松平右近将監傳ス　同十二年壬午四月六為西丸御勝手掛　於同所
史部屋縁頬而御老中列坐酒井左衛門尉傳ス
明和四年丁亥正月十四死

長當　青木鉞次郎　熊五郎

母　猪俣小兵衛　秀晴女

妻　書院番　柳原源太郎　女

明和四年丁亥四月二跡目七十俵五人扶持　於菊間縁而御老中列坐
伊豫守傳ス　為小普請川口鉞登享部

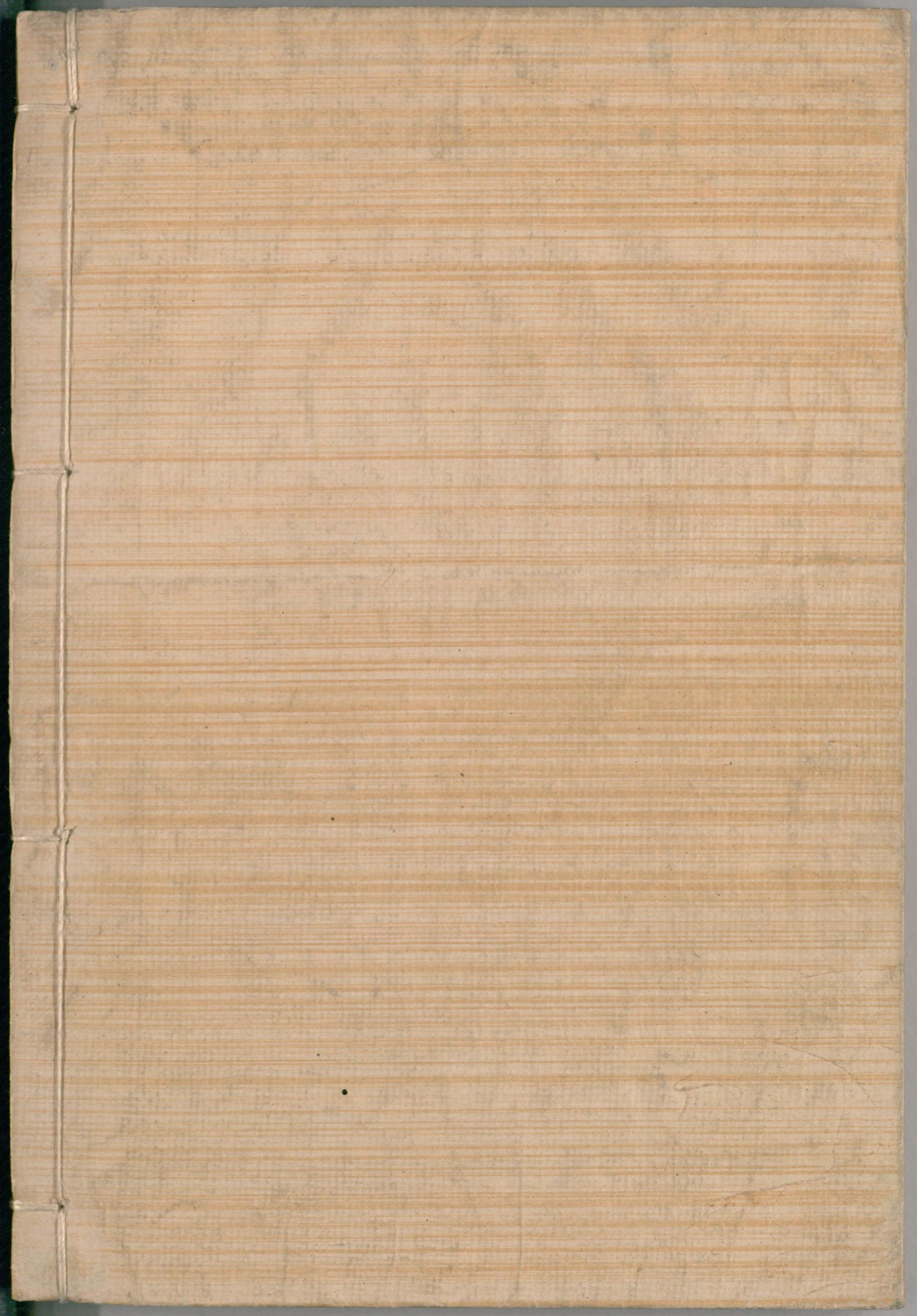


国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

838
297
116

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用